

資料

障害者雇用担当者連絡会における情報交換の一例

障害者雇用の現状と課題について（平成13年度まとめ）

（事業所 名）	（性別） 男・女	（年齢） 27 歳	（愛の手帳） 4 度	（身障手帳） 級	（住居） 自宅・通勤（生活）寮
（今年度の取り組みについて） 平成 13 年 10 月 1 日より実習開始。平成 14 年 2 月 1 日、正式雇用。 作業態度は真面目で、作業手順の飲み込みも早く、現在では活動準備の面（特にリサイクル活動）において、なくてはならない存在となっている。 また、利用者との関係も良好で、彼に会うのを楽しみにしている利用者も多い。利用者が親しみを込めてつねったり、気を引こうとして物を投げたりしても、冷静に対処している。 一方で、家族関係の希薄さ、家族による相互援助体制の不備（彼は両親を頼れないが、両親は金銭、社会関係調整といった点で何かと頼ってくる）によって、仕事を休んでしまうことがあった。					
（問題点とその対応について） ① 腹痛による欠勤 「腹痛を誰にも相談できず、かといって家にいるのも気詰まりだった」（本人談）。福祉園近くの診療所に、職員も付き添い受診する。その後、本人、福祉園職員（サポーター・係長）、実施機関、障害者職業センター、とで話し合いを持つ。本人が福祉園で働きたいか、再度意思確認を行なう。その上で、生活の安定や、緊急時の対応という点から、生活寮に生活の拠点を移すのがよいのではないかと提案する。本人の承諾を得、現在生活寮入寮に向けて調整中である。 ② 膝の痛み 膝の痛みを訴えることがあり、その都度作業の内容を変更した（例、外での園芸→室内での作業）。また、他の職員にも配慮してもらえるように、サポーターから声かけをした。 ③ 生活・健康管理 ノートを用意し、「朝晩の血糖値、三食の食事の内容、服薬をしたかどうか、体重（月、木に医務科で計測）、健康面で気付いたこと」を毎日本人に記入してもらい、それを基に毎朝話し合っている。 ④ 関係機関との連絡・連携 日々の打ち合わせや雑談の中で出された、様々な課題（本人の健康面、金銭問題等）について、必要に応じて関係機関へ連絡し、実施機関に対して、実施機関が核となって問題の調整を図ってもらえるよう働きかけた。その上で、本人の要望が実現できるよう援助（近隣医療機関の選定、診療所への付き添い等）を行なった。					
（次年度以降の課題について） 家族関係が希薄なことにより、就労に支障をきたしてしまうようなケースに対して、雇用者としてどのように関わっていくべきか。見守り、援助体制の構築にあたって、何ができるのか。					